

救急業務の実施状況

1 救急活動状況（前年比）

平成21年中における救急出場件数は2,026件（138件減）、搬送人員は1,913人（103人減）で、性別で見ると男性が1,040人〔54.4%〕、女性が873人〔45.6%〕となっています。

このうち、御坊医療圏内【美浜町・日高町・由良町・印南町・日高川町・御坊市〔管外〕】への救急出場件数は1,472件（67件減）、搬送人員は1,397人（49人減）であり、田辺医療圏内【みなべ町】での救急出場件数は554件（71件減）、搬送人員は516人（54人減）でした。

また、総救急出場件数2,026件に要した活動時間は延べ約2,062時間、走行距離は延べ60,075kmで、救急隊による出場件数の内訳は、日高救急隊889件（25件減）・南部救急隊537件（69件減）・印南救急隊375件（31件減）・中津救急隊225件（13件減）の順となっています。

なお、救急救命士が行った高度救命処置件数は61件（61人）で、その状況については「6救急救命士の活動状況」のとおりです。

年別救急出場件数及び搬送件数の推移



※ 昭和58年10月1日から救急業務運用開始。

※ 昭和58年から平成2年9月30日までは管轄7町村，平成2年10月1日からは管轄10町村。

- ※ 平成16年10月1日，南部町・南部川村が町村合併によりみなべ町となり，管轄9町村（管轄エリアの増減なし）。
- ※ 平成17年5月1日，川辺町・中津村・美山村が町村合併により日高川町となり，龍神村が田辺市と合併し，管轄6町となるが，龍神村は田辺市との消防事務の委託により業務継続。（管轄エリアの増減なし）。
- ※ 平成18年3月31日，田辺市との消防事務の委託期間が終了したため，管轄6町となる。（龍神出張所管轄エリア減）

2 救急活動の実態

(1) 救急出場件数の内容

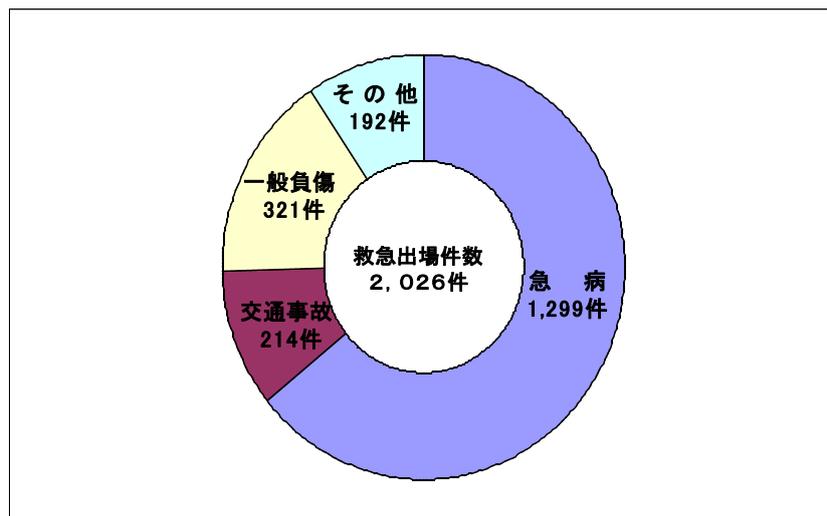
ア 事故種別（前年比） — 第1表

救急出場件数2,026件の事故種別をみると，急病1,299件（110件減）・一般負傷321件（16件減）・交通事故214件（11件減）・その他103件（5件減）・自損35件（10件増）・労働災害26件（1件増）・運動競技14件（1件減）・水難事故8件（増減なし）・加害3件（7件減）・火災2件（増減なし）・自然災害1件（1件増）の順となっています。

なお，急病〔64.1%〕，一般負傷〔15.8%〕及び交通事故〔10.6%〕が救急出場件数全体の9割以上を占めています。

上記の事故種別割合を全国平均〔平成20年中〕と比較してみますと，急病〔全国60.9%〕・一般負傷〔全国13.7%〕の発生割合が高く，交通事故〔全国10.9%〕の割合が低くなっています。

事故種別救急出場件数



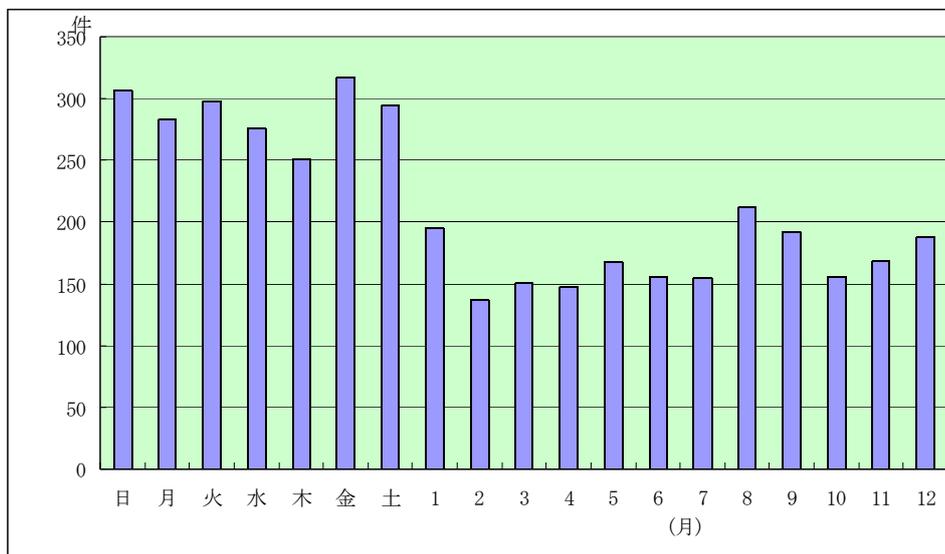
イ 曜日別出場状況及び月別出場状況（前年比） — 第2表

平成21年中の曜日別平均出場件数は，約289件（20件減）であり，最も出場件数が多い曜日は，金曜日の317件（平成20年中は，日曜日の332件）となっ

ています。

次に、月別出場状況を見ると、1ヵ月平均169件（11件減）の出場であり、最も出場件数が多かったのは8月の212件（平成20年中は、8月の213件）、次に1月の195件、9月の192件・・・の順となっています。

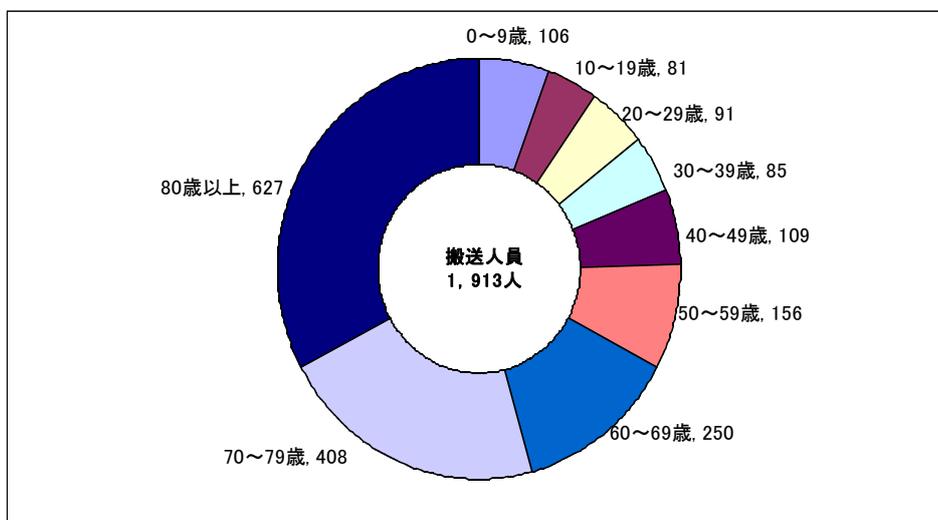
曜日別・月別救急出場件数



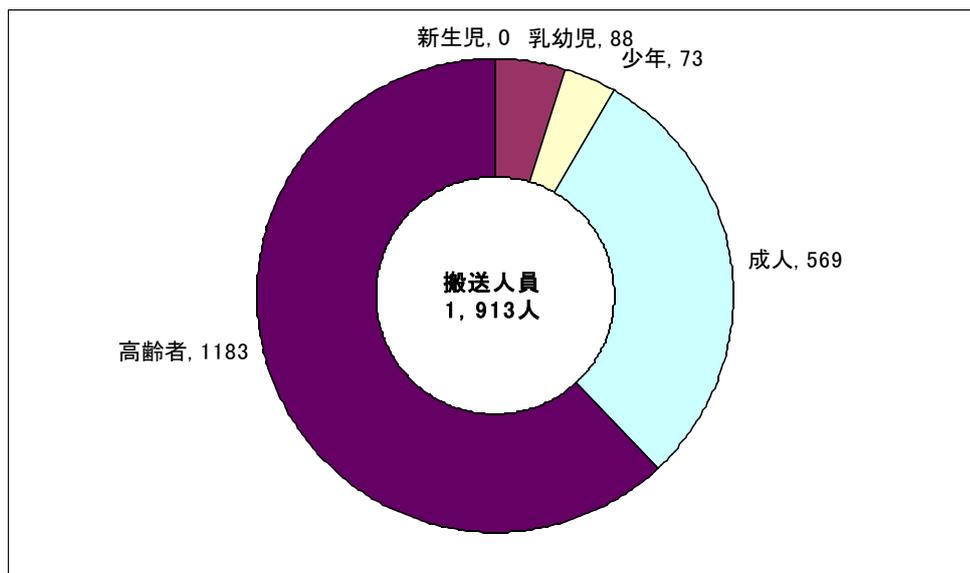
ウ 年齢別搬送人員状況（前年比） — 第3表

救急患者を年齢別にみると、80歳以上627人（12人減）、70歳代408人（14人減）、60歳代250人（5人増）、50歳代156人（39人減）、40歳代109人（31人減）・・・の順となっており、65歳以上の高齢者が1,183人で全体の61.8%〔平成20年全国48.3%〕を占めています。

年齢別搬送人員



年齢区分別搬送人員



※ 「新生児」：生後28日未満，「乳幼児」：生後28日以上満7歳未満，
 「少年」：満7歳以上満18歳未満，「成人」：満18歳以上満65歳未満
 「高齢者」：満65歳以上

エ 災害弱者等の搬送状況 —— 第4表

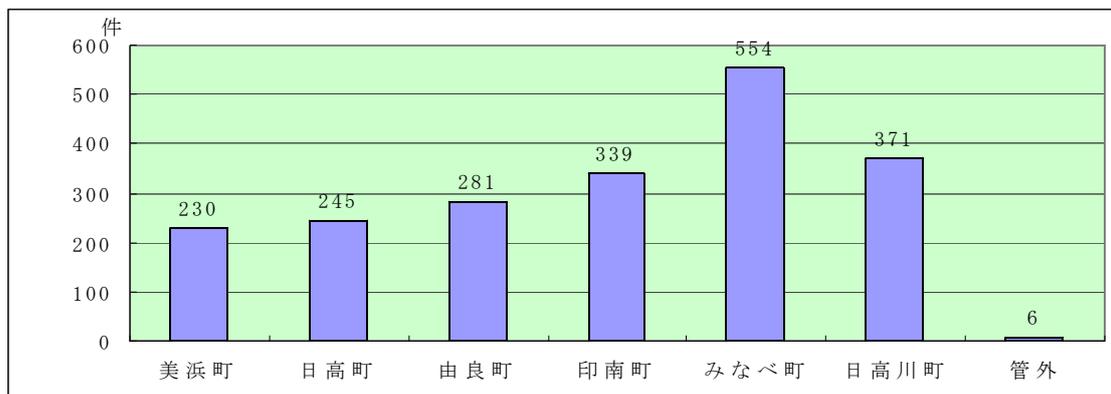
全搬送人員1,913人中296人(15.5%)が災害弱者であり，その内訳をみると，寝たきりの高齢者86人，独居の高齢者69人，在宅療法60人，認知症の高齢者35人，身体障害者31人・・・となっています。

また，在宅療法患者の在宅療法としては，酸素投与が最も多く33人となっています。

(2) 救急発生率及び利用率 —— 第5表

管轄町村別の救急出場件数は，みなべ町554件(27.3%)，日高川町371件(18.3%)，印南町339件(16.7%)，由良町281件(13.9%)，日高町245件(12.1%)，美浜町230件(11.4%)…の順となっています。

町村別救急出場件数



管轄町の全搬送人員からみた救急発生率〔管内住民100人当たりの搬送人員〕は3.3人であり、同発生率から住民搬送状況をみると、住民の約30人に1人が救急車を利用したことになります。

なお、救急車利用度の全国平均〔平成20年中〕が27人に1人であることから日高郡内での救急車の利用度は、全国平均より低くなっています。

また、全搬送人員から救急車利用度を町村別にみると、由良町が約27人に1人、みなべ町が約28人に1人、印南町が約29人に1人、日高川町が約31人に1人、日高町が約33人に1人、美浜町約35人に1人が救急車を利用したことになります。

(3) 救急車の活動率（前年比）

ア 隊別出場状況 ― 第6表

全救急隊（6隊）の1日当たりの平均出場件数は約5.6件（0.3件減）、1件当たりの活動所要時間は約61分（2分増）、走行距離は約29.7km（0.5km増）となっています。

全救急隊のうち1日当たりの平均出場件数が最も多いのは、日高隊の約2.4件（0.1件減）で、日高隊の出場件数は、出場件数全体の約43.9%を占めています。

イ 覚知別出場状況 ― 第7表

救急出場件数2,026件を覚知別にみると、消防専用電話（119番）が1,672件（うち、携帯電話407件）で全体の約82.5%を占め、次いで加入電話の256件、駆付通報83件、自己覚知15件となっています。

ウ 時間別出場状況 ― 第8表

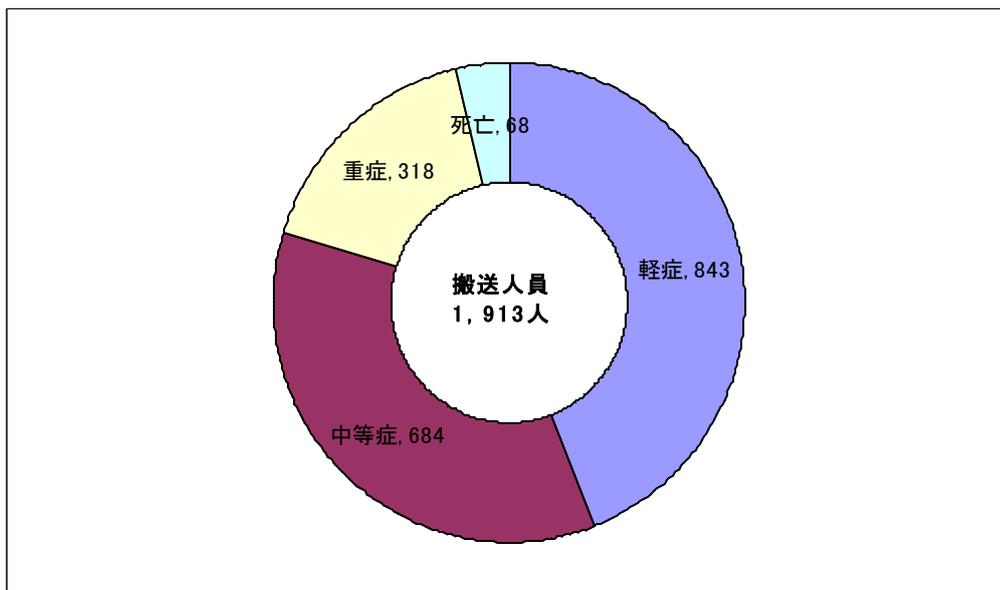
救急出場件数2,026件を時間別にみると、就業及び生活行動が活発化する午前8時から午後8時までの時間帯が1,388件で全体の約68.5%を占め、深夜になるほど出場件数は減少しています。

(4) 傷病程度別搬送人員の状況（前年比） ― 第9表

平成21年中に搬送した1,913人について、その傷病程度をみると、入院加療を必要としない軽症患者が全体の44.1%（2.4%減）、入院加療を要するもので重症に至らない中等症患者が35.8%（0.9%増）、3週間以上の入院加療を必要とする重症患者が16.6%（1.4%増）、死亡が3.6%（0.1%増）となっています。

この割合を全国平均〔平成20年中〕で見ると、当消防本部では重症患者〔全国10.0%〕及び死亡〔全国1.5%〕の割合が高く、軽症患者〔全国50.8%〕及び中等症患者〔全国37.6%〕の割合が低くなっています。

傷病程度別搬送人員



- ※ 「死亡」：初診時において死亡が確認されたもの
- 「重症」：傷者の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの
- 「中等症」：傷者の程度が入院を必要とするもので重症に至らないもの
- 「軽症」：傷者の程度が入院を必要としないもの
- 「その他」：医師の診断がないもの及びその他の場所に搬送したもの

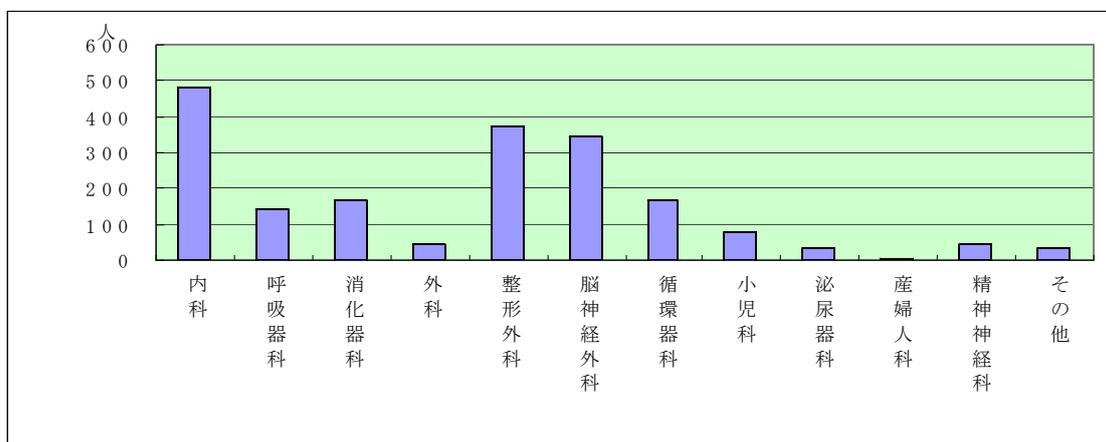
(5) 事故発生箇所別搬送人員状況 — 第10表

各傷病者を事故発生箇所別にみると、急病は住宅で発生したものが約79%を占め、交通事故は道路で約95%、一般負傷は住宅で約58%が発生しています。

(6) 診療科目別搬送人員及び収容状況 — 第11表

平成21年中に救急搬送した傷病者1,913人を診療科目別にみると、内科483人(25.2%)、整形外科375人(19.6%)、脳神経外科342人(17.9%)、消化器科166人(8.7%)、循環器科165人(8.6%)・・・の順となっています。

診療科目別搬送人員



3 医療機関の実態

(1) 全救急隊（6隊）の救急患者収容状況

ア 医療機関別 ― 第12表

平成21年中に搬送した傷病者数は1,913人で、その収容状況を医療機関別にみると、第1位が日高病院の687人（35.9%）、第2位が北出病院の273人（14.2%）、第3位が紀南病院の232人（12.1%）、第4位が和歌山病院の189人（9.8%）、第5位が北裏病院の173人（9.0%）、第6位が南和歌山医療センターの162人（8.5%）の順となっています。

なお、これら上位6病院で全傷病者の約89.7%が収容されています。

(イ) 重症患者の収容状況 ― 第13表

全搬送人員のうち重症患者は318人で、その収容状況をみると第1位が日高病院の132人（41.5%）、第2位が北出病院と和歌山病院の各35人（11.0%）の順となっています。

(ロ) CPCR実施患者の収容状況 ― 第13表

CPCR（心肺脳蘇生法をいう。以下同じ。）を実施しながら医療機関に搬送した患者68人の収容状況をみると、第1位が日高病院の21人（各30.9%）、第2位が和歌山病院の17人（25.0%）、第3位が北出病院の12人（17.6%）の順となっています。

イ 医療機関の所在地別収容状況 ― 第12表

収容医療機関の所在地別に救急患者の収容状況をみると、全傷病者のうち御坊市内の医療機関に1,144人（59.8%）、田辺市内医療機関に455人（23.8%）、管内である日高郡内の医療機関に248人（13.0%）、その他県内医療機関に66人（3.4%）となっています。

ウ 事故種別による収容状況 ― 第14表

事故種別からみて救急件数の多い急病、交通事故及び一般負傷について、それぞれの種別ごとに救急患者の医療機関収容状況をみると次のようになります。

(イ) 急病の場合は、第1位が日高病院の39.5%、第2位が北出病院の18.3%、第3位が和歌山病院の13.8%の順であり、これら上位3病院によって全急病患者の約71.6%が収容されています。

(ロ) 交通事故の場合は、第1位が北裏病院の34.7%、第2位が日高病院の27.5%、第3位が辻村外科の10.8%の順であり、これら上位3病院によって全交通事故患者の約73.0%が収容されています。

(ハ) 一般負傷の場合は、第1位が日高病院の32.2%、第2位が北裏病院の28.1%、第3位が南和歌山医療センターの9.2%の順であり、これら上位3病院によって一般負傷患者の約69.5%が収容されています。

(2) 転送搬送状況（前年比） ― 第15表

平成21年中の転送搬送件数（処置困難等の理由により、第一次搬送先医療機関で収容できないため、他の医療機関へ搬送すること。）は12件（3件減）であり、転送理

由は、処置困難が8件（66.7%）、その他が3件（25.0%）、専門外が1件（8.3%）となっています。

(3) 医療機関への収容依頼回数状況 — 第16表

医療機関への収容依頼回数は、平均1.2回であり、これは傷病者1人を収容するのに、平均1.2カ所の医療機関にしか収容依頼を行っていないことを意味するもので、この数字は、御坊・田辺両医療圏の救急体制の充実ぶりを反映したものとと言えます。

4 救急隊による応急処置の状況 — 第17表

平成21年中の搬送人員1,913人のうち、救急隊員が応急処置を行った救急患者は、1,911人（搬送人員の約99.9%）です。

救急処置の内容は血中酸素飽和度測定が最も多く1,835件、次いで血圧測定1,737件、心電図測定685件、保温635件、酸素555件・・・の順となっています。（不搬送を除く。）

なお、全搬送人員1,913人のうち68人に対してCPCRを実施しています。

次に、応急処置の実施率について全国平均（平成20年中）と比較してみると、全国が97.9%であり、当消防本部の実施率は、全国の実施率を上回っています。

5 救命の実態 — 第18-1表～第18-4表

(1) CPA患者及びCPCR患者発生状況

平成21年中のCPA患者（救急隊が現場到着時、既に心肺機能が停止している患者、又は病院到着時までには心肺機能が停止状態になった患者をいう。以下同じ。）は117人であり、平成20年中のCPA患者109人に比べ8人の増加となっており、全救急搬送患者に占める割合は6.1%で、過去3年間（平成18年から平成20年）の平均5.1%を上回っています。

CPA患者117人のうち、救急隊がCPCR（心臓マッサージ及び人工呼吸）を施した患者は68人（全CPA患者の58.1%、全救急搬送患者の3.6%）となっています。

(2) CPCR患者の年齢別発生状況

CPCR患者を年齢別にみると、65歳以上の高齢者（53人）が全体（68人）の77.9%を占めており、CPCR患者の高齢者比率が高いといえます。

(3) CPCR患者の蘇生及び救命状況

CPCR患者79人のうち、蘇生（24時間以上入院した者）に成功したのは5人（蘇生率7.4%）となっています。

(4) CPCR患者の死因別状況

CPCR患者の死因（医師の診断に基づく。）をみると、心疾患によるもの（21人）が全CPCR患者（68人）の30.9%を占めており、次にその他（13人）19.1%、呼吸不全（10人）14.7%の順となっています。

(5) 救急隊のCPCR着手までの時間

覚知から、救急隊がCPCRに着手するまでの時間は、5分から10分未満で35.3%（24人）、10分から15分未満も32.4%（22人）、15分から20分未満が17.6%（12人）、35分から40分未満が4.4%（3人）となっています。

(6) バイスタンダーによる救命手当の実施状況

CPCR患者68人のうち、バイスタンダーにより人工呼吸、心臓マッサージのいずれか一方又はその両方が実施されていたものは15件（22.1%）でした。このうち、心臓マッサージと人工呼吸の両方が実施されていたもの9件（13.2%）、心臓マッサージのみ実施されていたもの6件（8.8%）、人工呼吸のみ実施されたものはありませんでした。

6 救急救命士の活動状況

平成21年中における救急救命処置（重度傷病者のうち、心肺機能停止状態の患者に対して、救急救命士が医師の具体的な指示に基づき実施した救命処置をいう。以下同じ。）は、救急隊員によりCPCRが施され、かつ、医療機関に収容された傷病者68人中61人に対して実施されており、救急救命士の活動状況については以下のとおりです。

(1) 出場状況

| 救 急 隊 別 | 出 場 件 数 | 搬 送 人 員 |
|---------------------|------------|------------|
| 全 救 急 隊 (A) | 2, 0 2 6 件 | 1, 9 1 3 人 |
| 救 急 救 命 士 乗 車 隊 (B) | 1, 9 9 6 件 | 1, 8 9 9 人 |
| 救命士乗車比率 [(B)/(A)] | 9 8 . 5 % | 9 9 . 3 % |

(2) 救急救命処置実施状況

| 救急救命処置 | 実施件数 | 実 施 人 員 |
|-----------|-------|---------------------------------------|
| 気 道 確 保 | 5 7 件 | 5 7 人（食道閉鎖式エアウェイ 4 8 人） （気管挿管 9 人） |
| 静 脈 路 確 保 | 2 5 件 | 2 5 人（薬剤投与 2 人） |
| 除 細 動 | 4 件 | 4 人 |

(3) 事故種別高度救命処置実施状況

| 高度救命処置 | 事故種別 | | | | | 合計 |
|--------|------|----|----|----|----|----|
| | 急病 | 交通 | 一般 | 自損 | 水難 | |
| 気道確保 | 41 | 1 | 10 | 4 | 1 | 57 |
| 静脈路確保 | 16 | 1 | 6 | 2 | | 25 |
| 除細動 | 4 | | | | | 4 |

(4) 指示病院選定理由

救急救命士が高度救命処置を実施するに際し、指示病院を選定した理由は、次表のとおりです。

| 指示病院名 | 指示病院選定理由 | | | | | 合計(%) |
|--------|-----------|---------|-----------|----|-----------|-----------|
| | かかりつけ | 原因疾患 | 指示輪番 | 外傷 | その他 | |
| 日高病院 | 7 | | 9 | | 3 | 19(31.1%) |
| 和歌山病院 | 9 | | 6 | | | 15(24.6%) |
| 北出病院 | 2 | | 9 | | 1 | 12(19.7%) |
| 北裏病院 | | 2 | | | | 2(3.3%) |
| 紀南病院 | 2 | | | | 9 | 11(18.0%) |
| 南和歌山 | | | | | 2 | 2(3.3%) |
| 田辺中央病院 | | | | | | |
| その他 | | | | | | |
| 合計(%) | 20(32.8%) | 2(3.3%) | 24(39.3%) | | 15(24.6%) | 61 |

7 住民指導等

(1) 応急手当員（上級）講習の実施状況 —— 第19表

当消防本部では、平成8年6月から実施している応急手当員（初級）講習（消防庁が定める普通救命講習の別称）の修了者を対象に、平成21年6月17日に第13回目の「応急手当員（上級）講習（消防庁が定める上級救命講習の別称）」を実施し、男性23人、女性4人が受講し、全員が効果テストに合格しています。

なお、第1回からの総受講者数は333人となっています。

(2) 応急手当員（初級Ⅱ）講習の実施状況 —— 第20表・第21表

業務の内容や活動領域の性格から一定の頻度で心停止者に対し応急の対応をすることが期待・想定されている者を対象とする応急手当員（初級Ⅱ）講習（消防庁が定める普通救命講習Ⅱの別称、平成17年から実施）は21年中はありませんでした。

(3) 応急手当員（初級Ⅰ）講習の実施状況 —— 第22表～第26表

応急手当員（初級Ⅰ）講習（消防庁が定める普通救命講習Ⅰの別称）を40回実施し、476人が受講しました。

なお、受講者の年齢層は、10歳代が291人（61.1%）と最も多く、次に30歳代の57人（12.0%）、20歳代の39人（8.2%）、50歳代の38人（8.0%）、40歳代の31人（6.5%）、60歳以上の20人（4.2%）となっています。

また、男女別では、男性が274人（57.6%）、女性が202人（42.4%）となっています。

次に、受講者を職業別にみると、学校関係者が286人（60.1%）、各種事業所関係者が113人（23.7%）、その他の団体が37人（7.8%）、消防団関係者が21人（4.4%）、役場関係者が17人（3.6%）、個人受講者が2人（0.4%）となっています。

応急手当員（再）講習は26回実施し、309人が受講しています。

(4) 一般講習〔救急講習〕 —— 第27表

平成21年中において管内各地で行った救急講習会は65回で、1,744人に対して心肺蘇生法・水難救助法・骨折に対する固定法等の指導を行っています。